

実践紹介集（令和元年度）

浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

地区	No.	事業名	実施団体名
浜田	1	輝きチーム結成事業	みはし地域まちづくりネットワーク
	2	地域で守り、抜けっていく広浜鉄道今福線	佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会
金城	3	新興作物生育環境整備事業	今福地区まちづくり推進委員会
	4	利便的な活動施設整備事業	
	5	旧美又小学校周辺維持管理事業	美又湯気の里づくり委員会
	6	妖怪スポット等散策ルート整備事業	
	7	ハッチョウトンボ生息地環境整備事業	雲城まちづくり委員会
	8	雲城山登山道の道標整備事業	
	9	雲城山登山道青原ルート保全事業	
三隅	10	まちづくり活動で地域防災力の充実強化をめざす	三隅地区まちづくり推進協議会
	11	三隅南小学校拡大同窓会	黒沢まちづくり委員会
	12	「食」をつうじた黒沢での暮らし応援事業	
	13	野山嶽環境・景観保全事業	まちづくり推進委員会 INO
	14	「学習アプローチ」による地域防災力強化事業 ～その時！命を守る行動をとるために～	

事業名

輝きチーム結成事業 1年目

事業費（予算額）：1,000,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：1,000,000 円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

■目的

みはしネットの各部会の実動部隊の層がまだ薄いので、協力者を増やしていくこと。
また、近隣住民同士が集まる機会がなくコミュニティが脆弱であること。

■見込まれる効果

みはしネットの各部会の事業への協力者が増え、その事業を通じて、地域住民同士のネットワークが強化され、新たなコミュニティが生まれてくる。

D

- 事業の概要

みはし地域住民が過半の 5 人が集まって、みはし地域が住み良い地域になることに繋がる活動を年に複数回行う場合に、輝きチームとしてみはしネットに登録していただく。登録していただいた輝きチームには、活動費の支援や、活動場所の優先提供をみはしネットが行う。

当事業は、平成 30 年度に「社会参加型サロン事業」として実施した事業を拡充したものであり、前年度に 6 団体、今年度に 2 団体の合計 8 団体が登録済みである。このほか、2 団体が、登録準備に入っている。

今年度登録となった 2 団体は次のとおり

- 相生町 2 町内清掃会：相生町 2 町内の 3 自治会の有志で支障木の伐採を行っている。
- M g m g サロン：収穫されず放置された果物や規格外農産物を使ってジャムを作る団体。

C

- 課題の解決度合（10 段階の自己評価）



・上記評価の理由

登録済みの多くの輝きチームより好評をいただいている。残り 4 年間も、この調子で公募を続けていき、登録されたチームについては、徐々に各部会との協力関係を結ぶ企画をチームの方々と立てていきたい。

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと
(評価を 10 に近づけるために)

登録チームが増えると、いずれ、複数のチームによるコラボ企画や、各部会への提案事業も生まれてくると想定される。

様々な機会を活かして、地域住民への登録の呼びかけと、みはしネット事業への協力要請を進めていく予定である。

相生町 2 町内清掃会



M g m g サロン



事業名

地域で守り、広げていく広浜鉄道今福線（Part3）

事業費（予算額）：1,123,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：1,000,000円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地域住民に対して地域資源である今福線の興味・関心度を高める取組を実施することにより、地域一体となって観光客をもてなし、さらなる交流人口の増加を図り、また、ボランティアガイド等の後継者育成にも繋げ、もって、地域の活性化を図りたい。

D

・事業の概要

【景観形成整備事業】

- 今福線沿線の一部の雑木林の伐開、抜根

【備品（案内箱）購入事業】

- 案内箱、掲示板の購入、設置
- 横断幕、啓発用小旗の作成

【ボランティアガイド育成事業】

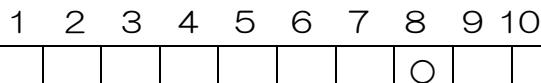
- ボランティアガイド育成のための研修会の開催
- ガイド用ユニフォームの作成

【地元住民への啓発事業】

- ガイドブックの作成、配布
- 啓発用DVDの作成、配布
- 地元住民の現地見学会の開催（コロナ禍のため中止）

C

・課題の解決度合（10段階の自己評価）



・上記評価の理由

概ね計画した事業は実施できた。地元住民を対象とした現地見学会は3月22日に開催する予定で準備を進めていたが、コロナ禍により中止した。その代わりに啓発用DVDを作成し、関係者に配布した。

A

・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと

（評価を10に近づけるために）

今秋には「第3回全国未成線サミット」が開催される予定である。コロナ禍での開催中止を危惧しているが、予定どおり開催された場合は、これまでの課題解決特別事業の取組が“日の目を見る”ことと期待している。併せて地域資源として更なる地域活性化に繋がるよう活用して行きたい。



事業名

新興作物生育環境整備事業

事業費（予算額）： 408,728 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 382,640 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

平成 30 年度から取組みを開始したシャインマスカット栽培において、多くの時間を費やすのが、手作業で行っている散水作業である。作業時間を短縮して他作業への効率化を図る必要がある。また、栽培する農地においては、耕土が浅く、掘削すれば石が出てくる状況であり、根域制限栽培をするのに必要となる耕土が不足しているので、生育条件を確保する必要がある。

D

・事業の概要

散水作業の効率化を図るために「自動散水機」を導入した。(灌水設備の整備)

耕土不足や生育条件の確保のために「真砂土・堆肥等」の埴土の追加を行った。(盛土・客土)

C

・課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	----------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

・上記評価の理由

シャインマスカット植栽(12 本)及び灌水設備や盛土及び二重被覆設置、谷間換気設置等、環境条件は概ね整った。しかしながら、今後、栽培管理・品質維持など 5 年後の成園確立や生産量 1 トンの目標があるので、解決度合を 7 とした。

A・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと
(評価を 10 に近づけるために)

栽培環境条件は概ね整ったので、5 年後の成園を目指して、会員を 5 班に分けて、施肥・除草・散水作業等を行っている。現在の会員は 26 歳から 78 歳までと幅広く、このプロジェクトチームの成功により、新たな農業後継者の増加、栽培面積の増加による耕作放棄地の解消など、地域農業が抱える問題を解決して行きたい。



事業名

利便的な活動施設整備事業

事業費（予算額）： 391,915 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 391,500 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

今福地区の耕作放棄地の増加や浜田八重可部線沿線の耕作放棄地は、地域の景観を損ねる大きな要因となっている。当委員会が所有する大型草刈機 2 台については、収納保管庫が無く、地区民は不便さを感じている。よって、住民の利便性を図るために、今福公民館付近に収納保管庫を整備することにより、積極的に農業機械を借りて、景観保全活動を行うことができる。また、チラシを全戸配布して利用促進を図る。

地域の農業者が栽培した野菜については、当委員会が購入した野菜乾燥機を活用し加工品として販売している。これまで単相 200V の電源がある個人宅へ設置をお願いし、利用者がそこで作業を行ってきたが、個人宅への設置では利便性も悪く、また、個人への負担となるため、野菜乾燥機をもやい市倉庫付近に移設し、利用者の拡大や更なる商品化の検討を行いたい。

D

・事業の概要

今福公民館付近に大型草刈機 2 台の「収納保管庫」を整備した。（景観保全対策）

もやい市倉庫へ単相 200V の配線設備を行った。（加工品開発）

今福地区全 220 戸へ利用促進チラシを配布した。（利用促進取組）

C

・課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>					
--------------------------	--------------------------	--------------------------	----------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

・上記評価の理由

大型草刈機の周知不足の感がある。利用者が限定されている。単相 200V 設置も利便性は改善されたが、利用者拡大までには至っていないので、解決度合を 5 とした。

A

・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと

（評価を 10 に近づけるために）

この取組を維持、継続していくためには、若い世代にいかに関心を持ってもらい、協力、参加の体制を構築できるかが重要となってくる。そのためには、地域住民や若い世代を対象とした機械の利用講習会や、加工品の研究、開発などを幅広い年齢の人が一緒に活動をしていくことを進めながら、地域活動や農業生産活動を担う後継者対策に傾注していきたい。



申請団体名：美又湯気の里づくり委員会

令和元年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

旧美又小学校周辺維持管理事業

事業費（予算額）：138,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：138,000 円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

旧美又小学校の校庭を、地域住民のグランドゴルフや子どもたちの野球等で利用している。

美又地区の有志や各町内会から参加して、年何回かグランド及び周辺の草刈り等を行っているが、高齢化や住民の減少に伴い作業が困難になってきており、今後の維持管理の仕方が課題。

D

- 事業の概要

旧美又小学校周辺の維持管理用として、散布機（動力噴霧機）を購入し、除草剤を散布し、その後車により鋼材を引き回すことで枯草の処理を行い、いつもきれいな状態でグランドゴルフ等が楽しめるよう維持管理を行う。

事業の実施に当たって、少人数または簡単に防除ができるような機種選定を心掛けた。

機種選定のポイント

- キャスター付…車がなくても機械を移動させることができ。防除しながら移動可能。
- 液体タンク付…機械と液体タンクが一体となっており、別のタンクの準備が不要。

C

- 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

・上記評価の理由

これまでの除草剤散布作業は、軽トラ、防除機、タンクが必要であったが、購入機械は機械1台のみの準備で防除が可能となり、簡単に防除作業を行うことができるようになった。

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

各町内会で道路や荒廃地の草刈作業を実施しているが、年々高齢化が進み草刈作業の実施も難しくなりつつある。導入した防除機を有効活用し、除草剤を散布することで、草刈作業の軽減を図りたい。



申請団体名：美又湯気の里づくり委員会

令和元年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

妖怪スポット等散策ルート整備事業

事業費（予算額）：113,064 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：113,000 円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

平成30年度に実施した「妖怪（河童）伝説活用事業」により、妖怪伝説に興味を持たれた方が来訪されるなど、美又地域の妖怪伝説が少しずつ認知されてきたと感じている。

しかし、妖怪スポットや名所旧跡に案内看板等がなく、来訪者が迷っている姿をよく見かけるため、来訪者が散策しやすいように案内看板や目印等を整備する。

D

- 事業の概要

公民館が地域に伝わる「伝説」や「妖怪」を題材とした事業を計画し、県から事業の採択をいただいた。

これまで、課題解決特別事業によりパンフレットの作成、缶バッジ作成キット、顔出しパネル等の作成を行ってきた。これらの「伝説」「妖怪」を題材とした事業の実施をより充実したものにするため、妖怪スポットの看板を作製し、設置した（3か所）。

C

- 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

					○				
--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

- 上記評価の理由

妖怪スポットは河童等河川にまつわる場所が多く、パンフレットにスポットは明示してあるものの場所が分かり難い。

看板を設置することにより正確な場所が確認できるようになった。

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 常に看板が確認できるよう、草刈などの維持管理の徹底
- 「お散歩マップ」を活用してのウォーキング大会等の計画
- 子どもを巻き込んでの「伝説伝承」方法の検討



申請団体名：雲城まちづくり委員会

令和元年度 浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名：ハッショウトンボ生息地の環境整備事業

事業費（予算額）：315,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：315,000円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

ハッショウトンボ生息地は県下で最大の群生地であるが、生息環境変化（土壌の富栄養化や生息地の水草増加）で個体数の減少が進行している。個体数減少を食い止める工事を地域のハッショウトンボを守る会を中心に実施、合わせて英語の生息地案内板を整備する。

D

- 事業の概要

以下の通り

- 生息地の1/4区画について水草を一旦除去、適正な間隔で水草の植えなおし。
- 当事業を環境学習かねて浜田高校自然科学部や県大生の協力を得て実施。
- 自走式草刈り機2台の導入。
- 事業実施については「妖精の守り人プロジェクト」や「トンボを守る会」ほか地域住民の協力により生息地や観察路や周辺の除草などの環境整備も併せて実施した。
- 生息環境を説明する英語看板設置

C

- 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○		
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

- 上記評価の理由

・事業目的は達成したが、現時点では事業効果はわからないので8とした

（今後の2~3年の個体数がどうなってゆくか）

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 生息数の増加観察などを住民や学校の協力も得ながら確認したい（事業効果を採点したい）
- あわせて毎年7月ころ実施している「トンボ観察会」を継続することや生息地への訪問者の増加も期待したい

写真



申請団体名：雲城まちづくり委員会

令和元年度 浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名：

雲城山登山道の道標整備事業

事業費（予算額）： 506,000 円 （まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

雲城山登山道は3つのルートがあるがどのルートにも道標がなく登山で迷ったなどの苦情もあり今回の道標設置事業を実施した。
道標設置により安心して登山を楽しんでもらうことができ今後の登山者の増加も見込む。
令和2年春には青原町内会が花見を兼ねての登山や恒例となっている雲城公民館主催による雲城山3ルート同時登山などの計画もある。
地域外の登山愛好家などにも雲城山の登山を楽しんでもらいたい。

D

- 事業の概要

3つの登山ルートに合計37本の道標設置（完了）。

- 伊木ルート ····· 8本
- 青原ルート ····· 13本
- 上来原ルート ····· 16本

C

- 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○		
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

- 上記評価の理由

必要な個所には設置したので登山ルートの誤認減少が実現した。

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

道標設置を地域住民に知らせて雲城山に関するイベントの企画・実施を促したい。
令和2年度は道標設置記念3ルート同時登山イベントを予定している。

写真



申請団体名：雲城まちづくり委員会

令和元年度 浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名：

雲城山登山道 青原ルート保全事業

事業費（予算額）： 220,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：220,000 円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

雲城山登山道の青原ルートの通行悪化（課題）を改善する事業の実施

活動のポイントとして地区まちづくり計画に掲げている「里山保全」と「交流人口拡大」、事業を通して住民の「ふるさと醸成意識とコミュニティ力の向上」を図る

D

- 事業の概要

雲城山登山道のうち青原ルートは全長約 3km 程度あり登山道入り口から 1.5Km は林道になっているが、ここ数年間は車両の出入りがなく道路わきの雑木が道をふさぎ、地道の道路は雨などで凸凹になり車の通行が困難になっていた。また、登山道の中間点から山頂までについても除草や雑木伐採がされていなかったため課題解決特別事業の採択により以下の事業を実施した。

- ① 林道区間の道路の著しい凸凹の改善＆通行を妨げる道路わきの雑木伐採と草刈
- ② 登山道区間の草刈りと雑木除去事業

C

- 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

- 上記評価の理由

- ・林道区間の車両通行が可能になった。
- ・登山道区間の雑木伐採により山頂までの登山の安全確保できるようになった。

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- ・青原町内住民とまちづくり委員会が一緒になり年 1 回程度の雑木伐採をおこなう
- ・眺望の良い青原登山ルートを活用した登山イベントの実施などにより雲城山登山者を増やす

写真



申請団体名：三隅地区まちづくり推進協議会

令和元年度 浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

まちづくり活動で地域防災力の充実強化をめざす
～防災訓練でネットワーク強化、そして情報発信へ～

事業費（予算額）：321,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：321,000 円）

P

- ・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

防災活動をとおして

- 1 三隅地区まちづくり推進協議会のネットワークの強化
- 2 三隅地区まちづくり推進協議会の広報活動のスタート

D

- ・事業の概要

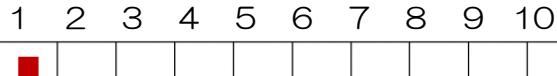
1.関係機関との連絡会

令和元年9月5日 第1回 公民館との連絡会

令和元年9月5日 第1回 三隅防災自治課との連絡会

C

- ・課題の解決度合（10段階の自己評価）



- ・上記評価の理由

令和元年10月の津波防災訓練の打ち合わせが不十分でした。

A

- ・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・令和2年6月と10月の訓練を活かしたい。
- ・新型コロナ対策の一つとして、ICTを活かしたい。

申請団体名：黒沢まちづくり委員会

令和元年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

三隅南小学校 拡大同窓会【負のスパイラルからの脱却作戦 第2弾】

事業費（予算額）：660,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業）：100,000 円

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

黒沢地域のこれからが不安。地域が疲弊しきっている。誰かに助けを求める。地域は、何事についてもやる気をなくしています。地域は年々年を取り、身体の弱体化と共に行動することが厳しく生活が苦しい。誰に助けを求めるべきでしょうか。それはやはり、黒沢を知っている、ふる里の出身者だと思います。その出身者にすがることが一番だと答えを出しました。関係を深め、交流を活発化したい。これが地域の課題解決に向かうための目標・目的です。

D

・事業の概要

「第1回三隅南小学校 拡大同窓会」の実施。案内する同窓生は約150人。開催の時期は8月11日（※祝日山の日）。ここ黒沢地区では、この日を「かっぱの日」と言います。黒沢の夏の風物詩として広く地域内外に知れ渡っているイベント「かっぱランド夏まつり」に合わせて実施。地域が頑張っている姿を見てもらい、帰省された子供たちに思いっきり自然体験をしてもらいたい。子供たちの夏休みの思い出の1ページに。そして親世代には、ふる里を見直してほしい。ふる里との交流を深めるきっかけに、ふる里を応援する気持ちを高めて、ふる里サポーターになってください。

C

・課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
					○				

・上記評価の理由

- ◆多くの同窓生が呼びかけに応じて集まってくれた。
- ◆ふる里サポーターへの賛同を得た。
- ◆ふる里の産物「ふる里米“いいね、黒沢”」の希望調査では多くの注文があった。
- ◆「かっぱランド夏まつり」には多くの親子連れが参加し、はしゃぐわが子の姿を見ながら嬉しさを噛みしめている姿が印象的だった。
- ◆今後の交流に弾みがついた。

A

・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ◆ふる里の産物を買い求めたいというニーズはつかんだが、送料問題等の解決策を考えねばならない。色々な方策はあるものの、少し時間をかけて策を練りたい。
- ◆一番の問題は、地域民を挙げての活動とならない。どうしても地域のことを考え、危機感を持っている人達だけが取り組む形となった。誰もが当事者意識をもって動く地域像とまでいかない。これが解決すれば「10」となる。



申請団体名：黒沢まちづくり委員会

令和元年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

住み慣れた地域での暮らし支援事業【食をテーマに、動く公民館事業】

事業費（予算額）：570,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業）：500,000 円

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

黒沢地区は、超高齢化地域です。65歳以上の一人暮らし世帯と75歳以上（後期高齢者）の夫婦世帯が占める割合は80%になります。こうした状況の中にあっても、住み慣れた地域で、健康で長生きするためには、何といっても「運動と食事」です。一人暮らしの家庭を訪問し、安否確認に合わせ健康状態を含めた見守り活動が急がれる。こうした地域課題を解決するために、公民館の調理室を一般食堂として許可を受けて食事提供に向けた行動を始めたいと思います。

D

・事業の概要

公民館の調理室を一般食堂にし、お弁当などをつくり、高齢者宅にお届けすることができる施設にする。（有料）また、公民館行事等の際にはお食事会が出来るようにして、コミュニティのたまり場に。

食事は有料としまちづくり委員会としてはコミュニティビジネスを展開する。収益金はまちづくり委員会の活動資金として有効活用する。

公民館の施設としての調理室を制限することになることから、支障が出ないように簡易な場所を用意し、公民館活動はこれまで以上に活発化を目指す。

C

・課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

・上記評価の理由

- ◆ 地域住民の理解が得られた。
- ◆ 保健所の許可が下りた。（一般食堂・露店）
- ◆ 浜田市から建物の一部が借用できた。
- ◆ 食堂「ちい助」の営業をスタートした。
- ◆ 中国電力（株）の要請に応えるための食事サービスを始めた。将来の訓練を兼ねて。

A

・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ◆ 高齢者が高齢者を見守るということが地域事情であるが、一人でも多くの調理人の確保が課題。
- ◆ 地域民のニーズを把握することが今後の作業。（アンケートや聞き取りで）
- ◆ 宅配を担当する人の確保。
- ◆ 地域内の交通対策。（免許証返納で交通弱者）



申請団体名：まちづくり推進委員会 INO

令和元年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

野山嶽 環境・景観保全事業

事業費（予算額）：725,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 725,000 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

野山嶽頂上及び登山道を整備し、井野地区の基幹産業である農業のシンボル的場所をよみがえらせるとともに、共同作業による繋がりから地域の基幹産業について地区民全体で話し合う機会を増やし、産業の後継者不足などの課題解決に住民一丸となって取り組む機運を醸成する

D

・事業の概要

○野山嶽登山道及び山頂を整備する（地権者の承諾、登山道の周辺雑木伐採・草刈り、階段の設置等） 11月～4月 頂上周辺雑木伐採・登山道整備

○地域各種活動グループと連携し、野山嶽までの経路看板や登山道入口看板を作成する。また、山頂から見えるものの解説などを書いた看板も作成し、来訪者はもとより地元の若者子どもたちが地域を知るきっかけづくりとする。

11月～7月 案内板作成・設置

C

・課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

			○						
--	--	--	---	--	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

山頂までの登山道整備は、かなりすすめられたが、地域内の子どもたちや活動グループとの看板製作が新型コロナウイルス感染拡大予防の活動自粛などにより進められなかつた。

A

・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

・地域住民への取り組みの周知活動やイベントなどを行い、関りを持ってくれる人が増えるよう努める。

山頂付近雑木伐採



登山道階段整備



ウォーキング



申請団体名：まちづくり推進委員会 INO

令和元年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

「学習アプローチ」による防災力強化事業
～その時！命を守る行動をとるために～

事業費（予算額）：498,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：498,000円）

P

- 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 1 地域防災力の強化 非常に命を守る実効的な行動を自助・共助でおこなう体制を整える。
- 2 平時における支え合いの推進 地域防災力を強化する過程において、非常時の共助のしくみだけでなく、平時における高齢者の見守りや生活支援など福祉的な支え合いを推進する。それが非常時の共助にもつながる。
- 3 組織・団体間のネットワーク強化 非常時および平時の支え合いを推進するための地域内の防災や福祉に関する多様な組織・団体が、話し合いや実践活動において連携・協働できる場づくりをおこなう。そのような場の中心となる「まちづくり推進委員会 INO」の組織再編を進め、連携・協働の場としてのプラットフォーム機能を強化する。

D

- 事業の概要

- 第1回 調整会議～「学習アプローチ」による防災力強化事業について 今後の進め方 11/14
防災講演会開催 11/23
第2回 自治会役員を対象にした地域防災力ワークショップ～危機対応イヤソーショートレーニング 1/15
第3回 我が自治会気になるところ観察～地域踏査 2/2
第4回 作戦会議1. 最悪の災害シナリオ抽出による災害対応 3/4
第5回 作戦会議2. やってみよう！避難行動訓練の実行プランづくり 3/25
第6回 総合防災訓練参加～訓練終了後ふりかえりミーティング

C

- 課題の解決度合（10段階の自己評価）

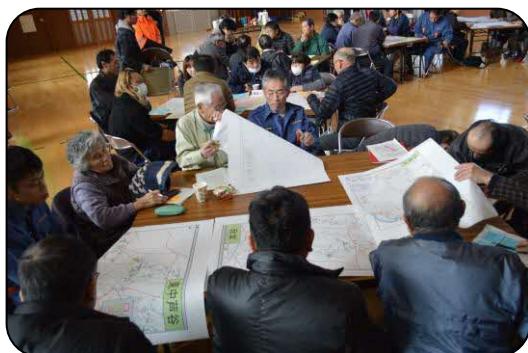
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

- | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|
| | | | ○ | | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|
- 上記評価の理由
新型コロナウイルス感染予防のため第4回以降の学習予定が実行できず、年度を終了しなければならなかった。また、高まりつつあった防災意識も活動の自粛により、前回までの内容の記憶が薄れていくのではと危惧している。

A

- 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

できるだけ早く、残りの事業予定を実施できるよう、手立てを考える。



地域内踏査